

審議会等の名称	平成 26 年度第 1 回阿見町立学校再編検討委員会
開催日時	平成 26 年 6 月 25 日（水） 午後 7 時 00 分から午後 9 時 18 分
開催場所	阿見町役場 3 階 第 301 会議室
議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成 26 年度検討内容及びスケジュールについて</li> <li>2. 児童生徒数の将来推計等について</li> <li>3. 通学等を考慮した適正配置について</li> <li>4. 意見交換会の開催について</li> <li>5. その他</li> </ol>
公開・非公開の別	公開 *傍聴者なし
議事結果	<p><b>【出席者】</b>（委員）</p> <p>糸賀忠委員，大久保久夫委員，坂本靖夫委員，田村敏博委員，長尾和博委員，北澤孝雄委員，後藤祐一委員，岡田治美委員，大越きよみ委員，高野好央委員，藤平竜也委員，菅谷道生委員，立原秀一委員，中島雅己委員の 14 人</p> <p>（町教育委員会）</p> <p>竿留教育次長</p> <p>学校教育課 菊池課長，小倉補佐、藤田係長、田崎主任、植松主事</p> <p>指導室 根本室長</p> <p>昭和(株) 山崎主任</p> <p><b>【次第】</b></p> <p>1. 開会 2. 教育次長あいさつ 3. 委員長あいさつ</p> <p>4. 議事 5. 閉会</p> <p><b>【会議内容】</b></p> <p>1. 平成 26 年度検討内容及びスケジュールについて</p> <p>〔資料に基づき、事務局から説明〕</p> <p>委員長 26 年度に検討する内容、スケジュールについて説明いただきました。26 年度全体の概要がつかめたかと思えます。疑問等ありましたらお願いいたします。</p> <p>委員 検討委員会ですが、昨年も当初 3 回の予定が 6 回の開催になりました。今年はずとめの回を除くと 4 回だが、これから具体的な話をしていく中でこの回数でまとまるのか。状況に応じて臨機応変に回数を増やすこともあるのかお伺いします。</p> <p>事務局 会議の状況によっては、回数を増やしてということをお願いいたします。</p> <p>2. 児童生徒数の将来推計等について</p> <p>3. 通学等を考慮した適正配置について</p>

〔資料に基づき、事務局から説明〕

委員長 学校再編パターンについては、第3回検討委員会で事務局から提案がありました。具体的な検討をしないままになっております。進め方に色々な意見があるかと思いますが、まずは5つの再編パターンについて、ご意見があればお願いします。

委員 パターンの3と4については、本郷小を無くすというものだが、本郷地区については説明にもあったとおり、今後も人口の増加が見込まれている地域なので、現実的なパターンなのか。もしそうでないのであれば、3と4は除外して実質的な議論をした方が良くはないか。

事務局 この資料は11月にたたき台として作成したものです。10月に各地区での意見交換会や議会でも説明をするなかで、色々な意見を伺ってきました。その中で、どうしても人口の多い地区への統合パターンになってしまうということがありますので、町全体の地図を見てバランスよく学校の配置を検討すると、3と4のパターンについても考えられるということで、たたき台の一つとして提案したものです。ただ今のご意見の通り、昨年11月頃とは大分状況が変化しております。人口増が予想以上であるということがひとつです。それから、人口増に伴って荒川本郷地区のカスミの東側の周辺は市街化区域になっており、この地域についてさらに住宅開発の誘致を進めていこうという町の方針も打ち出されています。具体的には、道路網の整備は進んでいたんですが、上下水道についても早期の整備を行っていくという計画になっております。この地区は、本郷小学校のすぐ近くになりますので、昨年11月頃に検討していた時とはだいぶ状況が変化しているということで、本郷小を別の学校に統合というのは現実的な状況ではなくなっています。

委員長 今の説明ではパターンの3と4については、本郷小については分離新設もあるわけですし、住宅開発の状況も考えますと、本郷小を外すことはできないという説明だったと思います。そうすると、今回新たに検討するうえでは削除したいという考え方でしょうか。

事務局 本郷小については、今後も児童数の増加が見込まれますので、実穀小への統合は現実的ではないのかなと考えております。

委員長 事務局としてはそのように考えているということ踏まえ、皆さんのご意見をお願いします。

委員 例えば、パターン1では吉原小、阿見第二小を阿見小に統合する案となっているが、阿見小の教室数は足りるのでしょうか。

事務局 パターン1では、阿見小が一学年4学級になることを見込んでいますので、現施設で対応することが可能です。パターン5の、君原小、舟島小を阿見第一小に統合していく場合でも、一学年3～4学級ですので、施設規模としては対応可能です。

委員 パターン3・4の実穀小では、本郷小の児童数の受け入れは可能だったんで

すか。

事務局 実穀小はもともと一学年2学級の学校規模ですので、本郷小の一部を統合しても対応できると見込んでおりました。ただ、今後の住宅開発の見込みがだいぶ変わってしまいましたので、一学年2学級では対応できないと思います。

委員 資料3の「国・県の基準を考慮する」という部分は、町の方針が出たので、町の方針に従ってということで良いと思います。それから、新設校が4クラス規模の学校という説明だったが、本郷地区の人口がさらに増加するという説明もありましたので、新設校と本郷小の2つでも耐えられるのか。それともまた教室が足りなくなっていて、プレハブ校舎を建設するというのも想定しているのかどうか。そうであれば新設校の規模をもう少し大きくする必要もあるのではないかと、いう考え方も出てくると思います。後から予算をかけるなら、最初から予算をかけた方がいいという考え方もあるかと思いますがいかがですか。

事務局 現時点では、平成32年度の本郷小児童数を946人と見込んでいますが、さらに増加することが予測されます。新設校は一学年4学級の全体24学級で、児童数720人を想定しています。本郷小がプレハブ校舎を含めて、教室数が24で700人の児童数となっています。本来は施設規模からいけば、500人台くらいが適当かと思いますが、これら2つの学校を合わせると1,400人となります。今後の人口、児童数の伸びというものを想定することがなかなか難しいということではありますが、現状の推計児童数946人からはある程度の余裕はあるかと思えます。

委員 今の話で、例えば一学年5とか6とかの規模の学校を作ろうと思えば可能なのですか。

事務局 今回定めた基本方針の中で、適正規模を2~4学級としています。また国や県の基準等では、2~3が適正規模といわれております。建設については、国から補助金等の交付も受けて事業を実施しますが、3年後までの児童数が補助の基準になります。阿見町としても全体の予算の中から、非常に大きな予算を必要としますので、いくらでも大きく出来るかというところではないと考えております。また、本郷小は夏休み期間から耐震化工事を実施する予定となっておりますので、そうしたことも含め一学年4学級規模の学校ということで考えております。

委員 学校の適正な規模というのは児童数や学級数だけではなく、本郷小では700人の児童がグラウンド、体育館、プールを使うということは、決して教育環境が恵まれているとは言えないわけです。今後本郷小近くの住宅開発で人口がまた増加すれば、本郷小の児童数が一旦減っても、また現在と同じような状況になることも考えられますので、行政としては予算のことが大きいとは思いますが、ただ単に2つの学校に割り振れば良いというわけではなく、見通しをもって学校規模について検討していった方がいいのではないかと思います。

委員長 町としては、今後のどれぐらいまで将来を想定しているのかという質問だったかと思いますが。

事務局 ただ今のご意見はその通りだと思いますが、度々お話ししていますが 20 年前はこの地区の小学校を 3 校建設するという計画が、結果としてやっと 1 校建設することになったということで、将来推計が非常に難しいということはありません。牛久市の例で、ひたち野うしく小学校が H22 年に一学年 3 学級規模で開校していますが、開校後すぐに児童が一杯になってしまって、すぐに増築工事を実施しています。元々は中根小学校から分離した学校ですが、ひたち野うしく地区の人口増加に伴って、その中根小も増築・増築ということで、さらに今年度から増築工事を予定していると伺っています。このように想定が非常に難しいということがあります。学校教育課としましては、まちづくり全体を考える企画財政課や都市計画課などとは情報交換をしながら将来の検討はしておりますが、正直なところ見通せないという状況です。オルティエ本郷地区については、区画整理事業を実施しており、宅地の整地や上下水道ガス等が整備されていますので、すぐに家が建てられる状態です。その周辺部、カスミの東側の地区については、市街化区域になっていて、大きな道路 3 本が整備されていますが、上下水道・ガスが入っていませんので区画整理事業とは違ってすぐに家が建てられるような状況にはなっていません。このため開発の計画は出てきていますが、オルティエ本郷のような急激な宅地化の圧力はないのかなと考えております。

委員 学校再編とは直接の関係はないかもしれませんが、牛久市や土浦市では全ての学校でエアコンが整備されています。再編することによって学校が減っていけば、他の学校でもメリットがあるということがあると思います。エアコン等の整備については、阿見町ではこれまで校舎等の耐震化工事を優先して事業を行って、その後ということになっていると思います。その耐震化も今年で全学校が終わるわけです。それが新設校を建設するので、さらに待たせるということになると、住民や保護者の感情としては、また待ったかよということになると思います。学校教育課としては、予算の面で大変だとは思いますが、エアコンの整備やトイレの改修事業についても、学校再編と併せて考えていく必要があると思いますがいかがですか。

事務局 新設校が平成 30 年に開校しますので、既存の小中学校についても、エアコンの整備やトイレ等の改修事業についても、新設校の設備と差の出ないような形で順次整備していきたいと考えております。このための予算確保に向けて、担当部署と協議をしているところです。

委員 担当部署と連携を取っているという説明がありましたが、行政はすべて後追いになってしまって人口が増えたからどうするのではなく、行政が先行して計画策定をして進めていかなければ、学校は作りましたが足りなくなりましたとかという話になってしまうと思います。政治や経済の状況で色々な面が変わって行くということは、確かに理解は出来ませんが、先ほどのパターン 3・4 の説明については、半年前に提案したものが変わってしまうというのはあまりにも先見性がないといわざるを得ないと思います。それから大きな規模の学校建設の話がありまし

たが、基本方針として2~4クラスと出しています。小規模はそうですが、大規模校の弊害もあるわけで、その中で基本方針を出したにも関わらず、それを破って建てるといのはどうかと思いますし、矛盾しますし、我々委員も疑われてしまうということを感じました。

委員 本郷小の校長先生とお話する機会がありました。雪印メグミルクの関係者の転校生があつて、今後も順次入ってくるだろうという話でした。ところが、キヤノンの関連会社が400人規模で福田工業団に移転してくるという話は知らないようでした。もう少し教育委員会から学校に情報を提供して、共通理解のうえ考えていった方がいいのではないですか。現状でも、教室がない、職員室も足りないなどのいろいろ問題が出ています。ここで色々議論することも大事ですが、現場がもっと情報を持っていないとまずいと思います。もう一つ大事なことは、阿見町で子どもたちの受け入れ体制が不備ということになれば、牛久に行ってしまうということになりかねないので、町としては非常に損失になる部分だと思しますので検討をよろしくお願いします。戻りますが、案3・4については外すということでもいいんですか。

委員長 これまで色々な議論がありました。我々が中間答申した中には、望ましい学校規模として2~4学級というものがある中で、先行投資が必要であるとか、事務局からは色々な制約があるという説明もありました。非常に難しい問題だと思いますが、そのあたりもこの委員会の中で検討する必要があると思いますが、皆さんいかがですか。

委員 パターン3・4については本郷地区の開発もあるので、本郷小を残す方向でいいのではないかと思います。図面を見ると、通学区域がかなり広がるので通学手段をよく検討し、保護者等に納得してもらうことが大切だと思います。そのあたりを整理してもらおうと、パターン1・2ということのなるかと思っています。

委員 私もほぼ同じ意見です。パターン3・4については、現在の中学校区をまたいでしまうと思うんです。今各小学校では、中学校に行ったときに中1ギャップを無くすために、同じような教育をしていると思うんです。その点についてもやはり問題があるので、パターン3・4については違うのかなと思います。パターン5については、事務局からももう少し先の将来象かなという話もありましたが、私もそう思います。議会でも常陸大宮市を視察してきましたが、多くが新設校を作って統合しているんですね。パターン5では適正規模にはなりますが、適正配置ではないと思いますので反対です。

委員 6年後までの推計値を踏まえたなかでのパターンだと思うので、提示されたものになるのかなと思います。再編になったり、廃校になる学校については、感情的な問題もありますが、それについてはその次の問題として、これまでの話の中であまりあり得ないパターン3・4・5については省いた中で、1か2というのが現実的なのかなと思います。

委員長 先ほど中途になってしまいましたが、新設校の先行投資的な話については

いかがですか。

委員 企業であれば、やはり先行投資的な話というのはいいのではないかと思います。それから、パターンについては固定されているものではないですよ。あくまでもたたき台ととらえていいですよ。パターン2を修正する形で、例えば実穀小の一部を阿見小へ、阿見小の一部を阿見第二小へというのも、児童数のバランスや教室数を考えれば案としてあるのではないかと思います。事務局から提示された案だけでなく、もう少し色々な考え方を議論したらいいのではないかと考えますがいかがですか。

事務局 提示した12月時点では、4番にある中学校単位、行政区単位という考え方をもとにたたき台として提案したものですので、このほかにも今の意見のような色々な考え方もあるかと思います。先ほど説明させていただいた通り、今後5,6年後には本郷小を卒業した子どもたちが朝日中に入ることとなりますが、そうすると現在の施設規模では教室が足りないということになりますので、例えば実穀小地区とか、朝日中と阿見中に学区編成についても、議論になってくる問題だと思っています。

委員 今後本郷小が増えていくのが分かっているわけですから、実穀小は阿見小へ、阿見小から一部を阿見第二小にとというのがいいかと思います。

委員 本郷地区の人口が増えることによって、行政区の区分けが変わるということはないんですか。行政区単位で学区を決めるという縛りがあるとしたら、行政区が膨らんで区長さんが大変になってしまって、2つに分けるということがあるのか。そうなることによって、本郷小と新設校のバランスが良くなるのではないかと思います。

事務局 本郷という新しい行政区が出来まして、これから公会堂を建設する方向で進めているようです。現時点では、行政区を分ける予定はないようです。今回の資料3は、基本的に12月1日の第3回検討委員会の資料となっております。この時点では、行政区単位で学区を設定するという方針のもとにたたき台を策定しています。このため、新設校の児童数については住吉、二区北、二区南、本郷という4つの行政区の児童数を入れてありますが、この4行政区全てを新設校の学区とするのは児童数から見て難しいので、どこかで学区を分けざるを得ないということで説明させていただいております。新設校を一学年4学級としておりますので、児童数がこの規模をオーバーしないような学区を決めないといけないということです。

委員 だいぶ時間も経過しているので、委員の皆さんから決を採ってもらって、まずパターン3・4を外すことを同意してもらってから、パターン1でも2でも決めたいうで、先ほどの意見の肉付けというか一部修正してというふうに進めていってもらいたいと思います。

委員長 まず、パターン3・4については検討から外すことに賛成される方は挙手をお願いします。全員ですので、パターン3・4は外すということにします。残

りのパターンが1・2・5となりますので、5についてもいらないという意見が2人からありましたが、他の方はいかがですか。

委員 パターン5については、通学区域が非常に広がってしまうというデメリットがあると思いますが、将来的に2~4のクラス数を維持していくということになれば、やはり検討していく必要があると思います。ただ今後、教育委員会で考えていかなければいけない問題だと思いますが、小中一貫ということを見野に入れると、自分の学校がなくなってしまうということは、どこの市町村でも情情的に抵抗のある部分だと思いますので、つくば市の〇〇学園のように、例えば阿見中学区は阿見学園、竹来中学区は竹来学園というふうに新しい考え方にすればいいかと思います。例えば、稲敷市の新利根地区では、新設校を建てて3校を統合していますが、そのようなやり方だとあまり抵抗がないと聞いています。パターン5を外すことよりも、小中一貫で教員が兼務して両方を教えられるようなことを、検討していくということもあるのではないかと思いますので、5についても残していいと思います。

委員 私も検討するというので、残してもいいかと思っています。

委員長 今後の検討についてはパターン1・2・5ということですが、事務局から意見はありますが。

事務局 基本方針でも段階的な統合を見野に入れてということになっています。3つのパターン案は、1と2では阿見第二小がどうなるか、1と5では君原小・舟島小をどうなるかといったことが違うだけで、方向性としては同じパターンになりますので、ただ先ほど具体的に修正ということ、実穀小は阿見小地区へ統合した方がいいのではないかという意見もありましたので、そのあたりで他の委員の皆さんでご意見があればと思いますがいかがでしょうか。

委員 こういう案になったわけなので、その場合の遠距離通学をどうするか、基準はどうするかとかいったことを事務局で案を作って提示してほしい。本郷小と新設校の学区についても、次回案を出してもらってどうするかを検討しないと次の段階に移れないと思いますので、よろしくをお願いします。

事務局 遠距離通学については、当然スクールバスということになると思いますので、事務局で検討したうえで案を作って次回提示したいと思います。

委員 スクールバスについては、朝の登校時は一斉でいいと思いますが、下校時は低学年と高学年では時間が違うので、保護者の負担が増えないように配慮をお願いしたいと思います。

事務局 近隣の市町村の実例を調査したうえで検討したいと思いますし、低学年については放課後児童クラブの利用もありますので併せて調査します。また、阿見小ではバス通学の子どもさんがいます。

委員 下校時は低学年と高学年に分けて2便にしています。統合校のスクールバスの例を聞くと、利用者の範囲の問題でいろいろあるようですので、よく調査してもらえばいいと思います。

委員 児童生徒数の推計ですが、現在平成 32 年度までは実際に生まれた数をもとに推計値を出していますが、もう少し中長期的な推計を行う予定はないのですか。

事務局 将来推計については、これまでの町の総合計画や都市計画マスタープランでも将来推計を出していましたが、色々な要素があつて実態とあつていないということがありました。人口問題研究所というところで推計値を出すことはできるかと思いますが、やはり実際に生まれた子どもの数の方が現実に近いということがあります。

委員 平成 32 年まで検討すると、想定よりも極端に減ってしまうとか、地区的にもですが、そうするとさらに再編を考慮しなければならないということも考えられるのではないかと思います。

事務局 町の第 6 次総合計画でも 5 年後の人口を推計ではなく、目標として 5 万人と設定しています。学校教育課としても現在提示している、0 歳児人口までを参考にして計画を策定していきたいと考えております。

委員長 新設校の規模の問題でこだわってしまいましたが、ペーパーにまとめてもらえればと思います。4 教室の問題について、先行投資の問題、需要の想定の問題などあるかと思います。ひたち野うしく小学校の例なども聞くと、規模の想定が難しいと思いますが、4 学級とすることの説明資料を作ってほしいと思います。

事務局 次回ペーパーにまとめて、配布したいと思います。

#### 4. 意見交換会の開催について

〔資料に基づき、事務局から説明〕

委員 意見交換会の案内を配布するのは幼稚園に行っている児童だけですか。

事務局 幼稚園、保育所・保育園に行っているお子さんの保護者に配布いたします。

3 歳児になるとほとんどがいずれかには行っているかと思いますので、今回はそのようにさせていただきました。また、町のホームページにも掲示しています。

委員長 今回は保護者を対象に計画していますが、委員の皆さんについてはどのようにお考えですか。

事務局 意見交換会の内容につきましては、議事録をきちんと作りまして委員の皆さんには報告させていただきますので、今回は保護者のみで考えております。

委員さんでも PTA の方は保護者としてご参加いただければと思います。

委員長 その他の委員の皆さんは、今回は参加しなくてよいということですね。それでは説明のあつたような内容・日程で進めるということをお願いします。

その他で何かありましたらお願いします。

委員 パターン 5 の関連になりますが、国では将来的に 6・3 制が崩れるようなことを検討していますね。4・3・2 等ですが、それを踏まえて、保護者への説明などの場合は将来的にはこういったことも検討しているんだということを必要な



のかなと思っています。

委員 小中一貫校というのは具体化するんですか。並木中等は中高一貫で、小中一貫をやっているところもありますが、それというのは県とか市町村が主導してやっているんですか。教員はどうなっているんですか。

委員 小中は市町村で、中高は県立です。教員はいずれも県の職員です。

委員 阿見町でも小中一貫校というのはあり得るんですか。

事務局 現在の阿見町でも良く言えば施設分離型の小中一貫教育を行っています。教育推進委員会という組織を作って、小中の先生がそれぞれ授業を見に行ったりしています。

委員 つくば市でも一つの施設で機能しているのは春日学園だけで、後は何々学園と名前を付けていますが、実際に機能しているかはわかりません。

委員 ただ中学3年生は9年生と呼んでいますね。

委員 授業も中学校の教員が専門の教科を生かして、小学生に教えています。阿見ではやっていません。

委員 今の議論で小中一貫とパターン5がどのようにつながってくるのか、次回参考に教えてください。

委員長 この件については、次回説明をお願いしたいと思いますので、よろしくお願い致します。

委員 アンケート結果は、ホームページで公開していますか。

事務局 アンケート結果の本編については公開しています。本日の資料として配布した、アンケートの自由意見については公開しておりません。

委員 中には、公開してほしいというようなことを書いている方もいますし、意見交換会でもアンケートに書いたのになぜ公開しないのかと言われることもあるかと思いますが、公開した方がいいのではないですか。

事務局 意見交換会では、今日の資料の中から一部抜粋して、統廃合に対してみんな反対しているわけではないということを、知っていただくことも必要かなと思っています。

委員 一部抜粋して紹介すると作為的になってしまうので、個人状況の部分を削除して全て紹介した方がいいのではないかと。地域の方は反対する方が多いかもしれないが、君原小や吉原小の保護者でも、子どもの教育環境を考えると、統合を切実に望んでいる人が多いということを分かってもらった方がいいと思います。

委員長 改めてアンケートを見ていただいて、多様な意見があることを再認識されたかと思います。

委員 学校の統廃合には賛成です。舟島小も南平台地区ができて児童数が増えましたが、これからは減少していきます。新設校も同じだと思うので、10年、15年先のことを十分に見据えて検討しておくことが必要だと思います。

委員 学校関係の集まりなどでは学校再編のことがよく話題になったりするが、正確ではない情報や憶測が飛び交うようなことが多いようです。そういう時はいつ

も町のホームページを見るように案内しています。私たち委員としても、統合に対して反対が多い中で、検討委員会をやっているのではないということが分かると思うので、ぜひアンケートの自由意見も公開してもらった方がいいと思います。

委員 公開してもらった方がいいと思います。意見交換会でもそうですが、なかなか口に出せない人もいますので、色々な意見があるということを知ってもらうことは必要なことだと思います。

委員 実穀小地区は2世代、3世代同居が多い。祖父母の世代では実穀小の名前がなくなることにに対する抵抗は大きいので、保護者世代の生の意見を知ってもらうことでだいぶ違うのではないかと思う。

委員長 PTAの皆さんのご意見も伺いましたので、これらの意見を踏まえて事務局で検討していただくことにしたいと思います。以上を持ちまして、検討員会を閉会いたします。長時間にわたりありがとうございました。

(午後9時18分閉会)